



第43号

梅苑会報

福島を生きる

福島を愛する

福島をあきらめない

福島を信ずる

福島を歩く

福島の名を叫ぶ

福島を誇りに思う

福島を子どもたちに手渡す

福島を抱きしめる

詩集「諸の邂逅」収録・「決意」より
39回号・和合亮一著（記事8頁）





現役生からの報告

梅章委員会委員長 斎藤航

昨年3月11日の大震災。東日本全土を襲い、特に福島県は事故を起こした東京電力福島第一原子力発電所を抱えていることから日本だけでなく世界からも注目されました。あの震災からもう1年を迎え報道もだいぶ落ち着いてきました。福島県内でも完全とは言えませんが平穏に向かっています。県外においてはなおさらでしょう。しかし、ニュースにはならなくとも私たち福高生の学校生活は続けられます。あのとき起こったことは忘れてはいけません。今回は震災の日から順を追ってあのときの状況を振り返り報告したいと思います。

●平成23年3月11日

6校時目の授業中に地震が起こる。担当教員の指示に従って昇降口前の広場に集合。3・4棟が損壊。雪のちらつく中、生徒は1時間近く待機し、その後各自の交通手段で自宅に帰る。翌週の月曜日14日以降の登校については未定で、生徒は学校のホームページ「福高 ネット」で情報を確認するように指示。

東北本線で通う生徒の中には電車の運休で帰れない者が10名おり、学校の音楽室に宿泊した。翌日までは生徒全員が帰宅。

●平成23年3月12日

この日から4月17日まで体育館と校舎の一部が相双地区の住民の避難所となる。子どもからお年寄りまで約200名が避難した。

休校の間、生徒の中にはボランティアで避難所の子どもを励ましに来る者もいた。また、野球部は市役所で救護物資の搬入を手伝うなど部活動ごとのボランティアも見られた。「世の為たれ」の精神が身についていると実感できる機会であった。

●平成23年3月14日

県立高校Ⅱ期選抜合格発表が延期。21日まで休校の指示。

●平成23年4月18日

在校生が1ヶ月ぶりに登校。

3.11から 激動の一年



●平成23年4月19日
平成23年度入学式

予定より十日遅れとなりましたが、学校が再開してまた新たな生活が始まりました。しかし、1年生は体育館と梅苑会館、視聴覚室を2年生は特別教室を仮教室にして授業をする日が夏休みまで続きました。特に体育館での1年生の夏場の授業はノートに汗のにじむ過酷な状況でした。

震災の影響を受け学校生活もいつもと違うものとなりました。東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射線の影響がもっとも大きかったです。5月上旬、側溝に溜まった放射線量が高いところで1時間あたり60μシーベルトとなり、校舎西側の部室棟付近は生徒立ち入り禁止となりました。

学校の体育が通常通りできないということもありました。学校のプールの水は放射線量が高いと考えられ、排水すると処理場で濃縮され高線量の汚染水となるため排水できませんでした。このため平成23年度の水泳授業は本校をはじめ多くの県立高校でも見送られました。プールの汚水は平成22年から溜まり、排水の見通しは立っておりません。また、校庭は放射線量が高いため夏休み中に表土除去が行われました。今は、問題無く体育や部活動で使用しています。

夏休み明けによりやく学校の昇降口前に建った仮設校舎に移動となりました。仮設とはいえ、新校舎ができるまで使用されます。ようやく教室らしいところへ引っ越しとなり、学業へより専念できることを互いに喜びました。

移ってから半年が平穩に過ぎ、本校舎2棟にいる3年生が受験の追い込みをしている姿を眺めると、騒がしい1、2年教室が遠ざかり3年生にとっては勉強がはかどるのではないかと勝手に思っております。そして来年は自分たちの番だという思いで2年生は、再来年は自分たちだという思いで1年生は、3年生を眺めます。仮設校舎で授業を受けるということは、たくさんいる同窓生の中でもなかなか無いことです。卒業して、また学友同士再会したとき、思い出話として「震災」のことが語られたらなと思います。



同窓会会長
川崎眞二
(高校第11回卒)

ごあいさつ

昨年三月十一日の東日本大震災で被災された同窓生の皆様には心からお見舞い申し上げます。「いで湯とくだもの里」福島は、今もって放射線被曝の下で有効な対策のないまま一年を経過しようとしております。そんな中、昨年十一月に開催された同窓会総会において、図らずも会長に選任されました。その責任の重さに身が引き締まる思いであります。もとより浅学非才の身であります。役員並びに会員の皆様方のご支援とご協力を頂きながら同窓会の発展のため全力を尽くす所存でございますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

今井前会長さんには六年に亘り、同窓会発展に多大な功績を残されましたこと、心から敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、自己紹介を兼ね、自らの高校時代を簡単に振り返ってみたいと思います。昭和三十一年四月、三百五十名が入学しま

した。当時の我が国は、戦後の復興の兆しが見え始め、主力産業は軽工業から重化学工業へと転換していた時期でした。しかし、国民生活は未だ貧しく、進学は国公立大学が主流でした。路面電車や汽車の乗り継ぎ、又道路の不備などで通学には長い時間を要し、部活動を続けることは困難を極めました。そのため多くの部活は少数精鋭で戦っており、私は硬式野球部へ入部、先輩方十名の中に新入生は数名が加わりました。一方、軟式野球部が部員不足で五月の試合に出られない危機に陥っており、応援することになりました。しかし、県北予選で敗退し、次年度まで試合がなく三年生は引退、二年生一名が退部され、部員は私たった一人になってしまいました。その年の夏、硬式野球部は一六年振りに五回目の県大会優勝を飾り、東北大会（宮城・山形・福島）に出場するも敗れ、夢の実現はなりませんでした。この年の柔道部は県

下に敵なしといわれる程の強豪で、快進撃を続けていました。二年生の春、軟式野球部は一年生の加入を得て十一名になり、校舎北側の狭い空地で練習を開始しました。時々福大経済学部グラウンドをお借りし、更に出身中学校へ出向いて練習試合を重ね決戦に臨みましたが、延長の末一対二で逆転され敗れました。大会後、硬式軟式両野球部の慢性的な部員不足を解消するために、軟式野球部を解散することに同意しました。軟式野球部は昭和二十七年第六回国体の高校軟式野球が福島市開催と決まり、急きょ結成されました。二十七年三十年と二度県大会で優勝を果たすも、六年でその歴史を終えました。秋の新人戦に向けて硬式野球部は相変わらずの部員不足のため、再度入部の声が掛かりました。練習不足であり、チームに迷惑がかかるのではとの不安がありました。熱心に誘ってくれる友人に説得され、マネージャーとして再入

部することになりました。今思えば、青春時代の懐かしい一ページです。

大震災で損壊した校舎二棟は使用不可となり、今年四月から工事に入り、平成二十六年三月には五階建ての校舎が完成する見通しです。このため在校生はさらに二年間仮校舎での授業が

続きます。校庭も工事用の通路と駐輪場に使用され、狭くなります。同窓会はこの先二年間、皆様からのご支援を賜りながら、出来る限りの応援をして参りたいと思っております。母校の更なる発展を心より祈念申し上げ、会長就任の挨拶とさせていただきます。

福高同窓会総会

平成23年度「福高同窓会総会」が11月25日、午後六時から福島ビューホテルで開催されました。総会に先立って記念講演があり、東京大学大学院医学研究科教授の大橋靖雄氏（高校24回卒）による「放射線リスク評価はなぜ難しいか？」「がん予防と疫学研究」と題した講演がありました。

総会では、新会長の選出があり、六年間会長を務められた今井吉之氏に代わり、新たに川崎眞二氏が選出されました。

今年度の総会は諸般の事情により懇親会が開かれなかったものの、総会後、多くの会員たちは各所で旧交を温めました。



平成24年度 一般会計予算書 23年9月1日～24年8月31日

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	3,111,443	
(2)入会金	945,000	卒業生 (315名×3,000円)
(3)年会費	3,315,000	卒業生 (315×1,000円) 会員 (約1,500名×2,000円)
(4)雑収入	557	預金利子等
(5)繰入金	0	
合 計	7,372,000	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
1.事業費	3,880,000	
(1)総会費	500,000	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	3,000,000	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(3)母校後援費	280,000	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	100,000	
2.運営費	1,100,000	
(1)会議費	250,000	役員会、幹事会
(2)事務諸費	100,000	振り込み手数料他
(3)交際費	200,000	各回同期会、銭別、その他
(4)慶弔費	100,000	
(5)通信費	250,000	切手、葉書代
(6)旅 費	150,000	関東梅苑会、みやぎ梅苑会出席旅費
(7)雑 費	50,000	
3.梅苑会館運営費	500,000	
維持管理費	500,000	梅苑会館補修費積み立て
4.会員名簿管理費	850,000	平成22年度分会員名簿管理費
5.予備費	1,042,000	
合 計	7,372,000	

項目間の流用をお認め願います。

平成24年度母校後援会費予算書 23年9月1日～24年8月31日

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	7,834,030	
(2)会費	1,315,000	卒業生 (315名×1,000円) 会員 (約1,000名×1,000円)
(4)雑収入	970	利子等
合 計	9,150,000	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)後援会費	1,200,000	母校への助成 (しのぶ草デジタル化¥614,250含む)
(2)部活動助成	200,000	全国大会出場の一部への激励金
(3)予備費	7,750,000	
合 計	9,150,000	

項目間の流用をお認め願います。

平成24年度福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計予算書（特別会計）

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	697,327	
(2)積立金	500,000	同窓会一般会計より
(3)雑収入	673	利子等
合 計	1,198,000	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)修繕費	0	
(2)次期繰越金	1,198,000	
合 計	1,198,000	

平成23年度県立福島高校同窓会義援金会計報告

1.収入の部

(単位：円)

日付	氏名	義援金額	摘要
H23.7.15	昭和52年度2年9組同級会	30,000	
H23.7.22	関東梅苑会	1,400,000	
H23.7.28	歯科梅門会	200,000	
H23.7.28	市役所梅友会	100,000	
	利息	22	
合 計		1,730,022	

平成23年度 一般会計決算書 22年9月1日～23年8月31日

収入決算額 8,079,885円
支出決算額 4,968,442円
次年度へ繰越額 3,111,443円

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	3,696,888	3,696,888	
(2)入会金	945,000	942,000	卒業生 (314名×3,000円)
(3)年会費	3,315,000	3,430,450	卒業生(314名×1,000円)、 会員(1,267名)
(4)雑収入	112	10,547	預金利子、共学2期生寄付
(5)繰入金	0	0	
合 計	7,957,000	8,079,885	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
1.事業費	3,880,000	3,163,287	
(1)総会費	500,000	456,570	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	3,000,000	2,435,617	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(3)母校後援費	280,000	271,100	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	100,000	0	
2.運営費	1,200,000	465,155	
(1)会議費	350,000	288,600	H22年第2、3、H23年第1回役員会
(2)事務諸費	100,000	4,410	振り込み手数料
(3)交際費	200,000	65,000	関東・みやぎ梅苑会参加費
(4)慶弔費	100,000	0	
(5)通信費	250,000	44,045	往復葉書、切手
(6)旅 費	150,000	63,100	関東・みやぎ梅苑会出席旅費
(7)雑 費	50,000	0	
3.梅苑会館運営費	500,000	500,000	
維持管理費	500,000	500,000	特別会計へ
4.会員名簿管理費	850,000	840,000	平成22年度分会員名簿管理費
5.予備費	1,527,000	0	
合 計	7,957,000	4,968,442	

平成23年度 母校後援会費決算書 22年9月1日～23年8月31日

収入決算額 7,834,030円
支出決算額 0円
次年度へ繰越額 7,834,030円

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	6,003,054	6,003,054	
(2)会費	1,315,000	1,830,000	卒業生 (314名×1,000円) 会員 (967名)
(3)雑収入	946	976	預金利子
合 計	7,319,000	7,834,030	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)後援会費	1,200,000	0	
(2)部活動助成	200,000	0	
(3)予備費	4,930,000	0	
合 計	6,330,000	0	

平成23年度福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計決算書（特別会計）

収入決算額 2,000,482円
支出決算額 1,303,155円
次年度へ繰越額 697,327円

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘 要
(1)繰り越し	1,500,257	1,500,257	
(2)積み立て	500,000	500,000	23年度分
(3)雑収入	743	225	預金利息
合 計	2,001,000	2,000,482	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘 要
(1)修繕費	0	1,303,155	梅苑会館修繕費
合 計	0	1,303,155	

関東梅苑会だより

Face bookグループ開設 同窓会に新鮮な風 第1回の設立芋煮会も盛況

●予想を超える反響

関東梅苑会では、フェイスブック(Facebook)グループを昨年立ち上げて、千代田区で2月17日に第1回の設立大会を開いた。

これは昨年暮れに関東梅苑会の名簿拡充のための連絡網の構築が模索され、赤井雅さん(48回)をチームリーダーに亀田栄一さん(45回卒)、山口侑紀さん(58回卒)達がサポートして立ち上げられた。

フェイスブックは、アメリカで開発された実名登録のソーシャルネットワークで、日本では昨年ごろから多機能情報端末・iPadや高機能携帯電話(iPhone スマートフォン)の普及により急激に会員数を増やしている。お互いに「お友達」になると相互に書き込みを閲覧可



フェイスブック

能になる。この中で特定グループの設立も可能で、関東梅苑会グループの限定チャンネルを開設、2月末現在、本格始動1カ月で100名に迫る勢いで毎日会員が増えている。

特に学生、転職、転勤などで自宅住所では掌握できない若い世代の会員のネットワークを目標したが、これまで連絡がつかなかった昭和40年代の卒業生に連絡が取れた例も多い。

●ホームページと連携、密な連絡網を確立

会場となった千代田区のプラットフォームスクエアでは、大きな鍋が用意されて、話の華が咲き、懐かしい芋煮に舌鼓を叩いた。

こういった同窓生の輪での例を上げれば、都内各所に居酒屋・レストランを展開する会社勤務する沼田伸一さん(高校40回・ダイワエクシード東日本営業部長)の店を利用した宴会などもすでに実現している。沼田さんは「都内での宴会、飲み会はお任せください」と心強い言葉がある。

大学入試の事務作業が終わって駆け付けた甚野尚志さん(高校28回・早大文学部教授・西洋中世史)は、「早大文学部名誉教授の安在郁夫先生(高校10回)

にお世話になった。今度は私が後輩たちを面倒見る番」と、参加した現役学生に「大学院進学は、ぜひ当講座に」と頼もしい言葉も発せられた。

今度は、関東梅苑会ホームページと関東梅苑会フェイスブックの両輪で新しい時代の同窓会の連絡網の確立に力を注ぐことになる。

●西立川駅商店街に 福島応援ショップオープン・ 応援部隊も急募

2月某日フェイスブックの関東梅苑会グループに共学世代の1期生(高校58回)の山口侑紀さんのこんな書き込みがある。

「東京西立川に福島応援館オープン。がんばってつおい! 福島Vと東京の立川市に福島物産館が2月2日にオープンした様子がアップされている。

これも梅苑会の同窓生の輪で実現したものだ。

高校37回卒で弁護士の大野雅樹さんは「私の中学時代のサーカ一部の後輩の古川幸治さん(第一印刷グループ)の福の鳥プロジェクトの話が私のところにきたのです。それを赤井さん(高校48回)に相談したところ立川市の有力者を紹介していただき、それで西立川駅の商店街の皆さんの意見をまとめ実現したもので

す」と簡単な経緯を話す。

JR青梅線西立川駅から徒歩3分、9坪の店

だがオープンの日には福島の地酒や牛乳味噌鍋がふるまわれた。店舗には福島特産の菓子類やいか人参などの総菜類などが並べられている。店の看板は「西立商店街 福島応援館」とあり、がんばって福島Vの文字が埋め込まれた福島県の地図がアレンジされている。

大野さんは「この応援館をお手伝いできる人も探しています。風評被害の払拭とともに福島の下を発信できる店の一つとして継続していきたい」という。付近には昭和記念公園もあり、散策の名所、応援の輪を広げたものである。

フェイスブックのまとめ役の赤井さんは「フェイスブックの反響は予想以上に驚いています。立ち上げの芋煮会も大盛況。でもこれは単なる始まりの一つにすぎません。関東梅苑会の皆さんの輪を強くして福島復興の支援の輪をもっとと広げて力強いものにしていきましょう」と、更なる充実を語った。



ふるさとと共に生きる—— 関東梅苑会・合同同期会

日時 平成24年5月18日(金)
午後6時半(開場6時)

場所 東京グリーンパレス地下宴会場
(地下鉄有楽町線麹町駅徒歩1分・総武線市ヶ谷
駅徒歩8分。日本テレビ麹町日本社裏・イスラエ
ル大使館前)

会費 8千円
(会場費7千円・年会費千円)
学生は年会費のみ
同封の振り込み用紙で事前申し込みを
欠席者・年会費千円
また応援協賛金もよろしくお願いいたします。

当日払い可ですが、当日の名札準備のため5月8日
までお振り込み下さい。
詳細は関東梅苑会ホームページにも記載。

詳細は03-3462-1225か関東梅苑会HP参照
<http://www.kantobaienka.ne.jp>

● **離れて住む故郷に抱く想いを
胸に、合同同期会を開催**
関東梅苑会では毎年5月に年
1回の合同同期会を開催してい
ます。今年は5月18日(金曜日)
の夕刻より東京・麹町の東京グ
リーパレスにて開催されます。
(左に開催要項・同封の申し込
み用紙参照・なお関東梅苑会
ホームページ、関東梅苑会フ
ェイスブックにも表示)

昨年の東日本大震災における
被害、さらに原発放射能漏れに
よる被害とふるさと福島が危機
に瀕しています。農業、観光は
大打撃、故郷で暮らす家族、親
戚、友人に想いを馳せながら、
すでに何らかの活動をなさって
いる方もいらつしやるでしょう。
首都圏で暮らす我々は、ここに
きて何ができるかが問われてい
ます。
首都圏在住の会員は皮肉にも、
暫らく離れていた福島に対して、
震災によって、より身近に福島
を抱き寄せる想いが強くなった
気持ちをお持ちの方も少なくあ
りません。そんな思いの同期会
ができればと思つて企画しまし
た。故郷を長年離れていても

ふるさとと共に生きる——をテーマに 和合亮一さん上京 5月18日・麹町に参集を

へふるさとを生きるVという実
感をそのままに素直に言葉にし
た次第です。

ゲストに高校39回卒の詩人・
和合亮一さん(現保原高校教諭)
を招きます。和合さんは、テレ
ビ、雑誌、新聞等の媒体でご存
知の方も多いと思いますが、福
島で復興のために何ができるか

の思いをさまざまな形に表して
います。(次ページ参照)

関東梅苑会合同同期会によつ
て、会員の皆様が首都圏で福
島・ふるさとを生きる——を考え
るきっかけになれば幸いです。

【関東梅苑会会長・小松恭
三・役員・実行委員会・事務局
一同】

関東梅苑会・同窓会本部 に支援金150万を寄贈

昨年5月20日の平成23年関東
梅苑会総会・合同同期会は、当
初3人の福高恩師を招き開催予
定だったが、震災によって急
きよ変更、「福島を応援する
会」として開催した。

地震そのものの被害だけでなく、
原発の放射能汚染が報じら
れる中、福島の農業観光を守る
ために何かできないかとの声が

あがり、全農福島、福島市に働
きかけたところ福島産農産物の
販売、及びチラシの配布、観光
案内書の配布などが企画された。
会場には「がんばろう福島」
ののぼりや旗が並べられ、桃色
の制服を着たピーチキャンペー
ンクルーも参加した。

総会では母校の被災状況、み
やぎ梅苑会からは仙台や石巻の



支援金の目録を贈呈する
小松関東梅苑会会長(左)



津波により被害状況などが報告
された。
支援金は、小松恭三会長から
本部より出席した川崎眞二副会
長(現会長)に150万円の目録
が贈呈された。(支援金協力者
は関東梅苑会ホームページに掲
載)
また、東京大学大学院医学研
究科大橋靖雄教授が既に開始し
ていた福島県内の医療支援の様
子が映像を交えて報告された。
宴会なし、弁当での食事会と
なったが過去最高の207名が
参加した。

関東梅苑会公式サイト紹介 <http://www.kantobaienka.ne.jp>

本部梅苑会情報・関東梅苑会最新ニュースのほか、フェイスブック
情報など最新情報満載。“関東梅苑会”の検索でトップに表示され
ます。これまでの関東地区OB紹介は、元西武ライオンズ鈴木哲さん、
千葉大学長・齋藤康さん、朝日新聞・星浩さんらが紹介されて
います。また「梅苑会報」のバックナンバーも当ホームページで全
文を閲覧可能になりました。(事務局HP担当・高校31回・島田久)

詩人とは生き方です いま福島再生に何ができるか問われています

わごうりょういち
和合亮一さん(高校39回卒)

●魂に響く詩人の決意を 全世界に発信し続ける

2月18日、東京都調布市中央図書館主催の和合亮一さんの講演と詩の朗読が行われた。

「……福島を生きる 福島を愛する 福島をあきらめない……」

最後の「福島を生きる」は7回のリフレインがある。

朗読の場面になるとこやかな表情の静かな語り口が一変する。力強い魂の言葉が胸に染み込む。今号の表紙にも一部使われていた和合さんの詩集『詩の邂逅(かいこう)』(朝日新聞出版)の冒頭にある『決

意』という詩だ。

地震直後、わずかな水と残り少ない食糧、家族を避難させ宿舎の暗がりの中でツイッターに打ちこんだ放射能が降っています。静かな夜です。『詩の磔(つぶて)』・徳間書店収録)の一説は、静寂の中、福島が受けた受難の深刻さが伝わる。

福島を愛し、守り、再生を誓う多くの人々の声を代弁し発信し続ける詩人だ。

和合さんは、福島三中から福島高校に進み、福島大学教育学部を卒業し、相馬農業高校、川俣高校、福島西高校、そして現在保原高校で国語教師を務め

ている。

ただの高校教諭ではない。平成10年には第4回中原中也賞を詩集『AFTER』で受賞、平成18年には地球頭脳詩篇Vで第47回晩翠賞を受賞、六本木詩壇会という若手詩人を中心にしたグループも主宰する日本の詩壇界のトップランナーの一人でもある。震災後、オランダでの詩の朗読会にも参加した世界的にも注目浴びる日本を代表する詩人となった。

●演劇部に所属、文化祭でありたけの力を注ぐ

高校時代を語ってもらおう。

「演劇部に所属、夜遅くまで部室で仲間と語り合うことに喜びを感じていたのです。劇的な物が好きだったことは確かですね。

文化祭にはありたけのエネルギーを注いだタイプで、前年に文化祭でちょっとした事故があり、自粛ムードが漂っていたのですが、校長の六角宏先生に開催の実現に向けて手紙を書いた

ほどです」

大学時代も演劇研究会に所属、唐十郎率いる紅テントの芝居の福島講演を2度見ている。演劇活動を続ける中、詩作も始め、手製の詩集を道行く人たちに配布したこともある。

就職は東京へという思いも

あったが、長男の自覚のもと地元福島での教員生活を選択した。「晩翠賞を受賞した時、晩翠は福島の校歌を作詞した土井晩翠です。受賞の挨拶は福島の校歌について話しました。そういう意味では福高精神が私の体の中に染み込んでいます」

詩人とは？と問い掛けてみた。「詩人とは生き方です。いま私にとっては故郷を守り、再生するため何をすべきか、その言葉を発信することです」

これは地震以後の活動で、それを実践してきた。

●今年の8月15日もプロジェクトフクシマを開催

昨年8月15日、福島市内四季の里で1万2千人を集めるコンサート・詩の朗読会、プロジェクトフクシマが開かれた。坂本龍一のピアノに合わせて詩を朗読する和合さんの姿が全国紙の紙面で報じられ、テレビでも特集番組が流れた。

「集まって来たのが福高つながりなんです。同期の山下直哉さん(クサカ印刷社長)、ミュージシャンの遠藤ミチロウさん(高校21回・カリスマ的な人気を誇ったロックバンド「スターリン」のリーダー)、大友良英さん(高校30回、世界的なジャズギタリスト)、それにN

HKの音楽プロデューサーの山岸清之進さん(高校45回)もそうだった。今年も8月15日に開催します。もっと大きな輪にしたいですね」

この2月末には『ふるさとをあきらめないーフクシマ25人の証言』(新潮社)が出版される。内容は和合さんが休日を利用して自ら足を運びインタビューした記録だ。印税は震災孤児に寄付される。

震災後、生き方が問われるのは詩人だけではない。地震後、福島に縁のある人に限らず日本人のすべての人にこれからの生き方が問われている。

(会報担当・高校24回油井富雄)



調布市で講演する和合さん



本屋に並び和合さんの詩集

みやぎ梅苑会だより

情熱と夢で震災復興を！

みやぎ梅苑会役員を 全員再選

みやぎ梅苑会は、9月15日仙台市青葉区のハーネル仙台で平成23年度定時総会・懇親会を開催しました。会は、橋本俊一理事（高21回卒）の司会で、初めに物故会員や3・11大震災で亡くなられた方々に謹んで黙禱を捧げた後、歌川和夫会長（高17回卒）が「大震災がありました、集って元氣を出し、情熱と夢を持って震災復興に行政の尻叩きをしようと考え、総会を開催することとした。趣旨をご理解頂き、絆と親睦を深めて欲しい」と力強く挨拶されました。今井吉之同窓会長の来賓の挨拶の後、母校の深谷茂樹教頭から、難関突破の入試結果や運動部の活動状況、スーパーサイエンスハイスクールとして、英国ケンブリッジ大学でのワークショップに招待されたこと等、生徒の活躍を紹介されました。また、深谷教頭は懇親会場で、震災で被害を受けた教室、体育館を仕切って授業を受ける新入生、放射能を除去する校庭等、映像で母校の様子を説明されました。困難な環境下でも逞しく、伸び伸びと成長してい

る生徒の姿は、参加者一同に強い感銘と勇気を与えました。

歌川会長が議長となつて取り仕切った議事では、平成22年度事業・会計報告・監査報告が了承され、平成23年度事業・予算（案）が執行部の提案通り可決された後、執行部から役員選任について「震災後のこともあり、全員再任願いたい」と提案され、満場一致で可決され、歌川会長の2期目がスタートしました。

森川利夫副会長（高6回卒）の開催挨拶、千葉正顧問（高1回卒）の乾杯の発声で懇親会に入りました。懇親会の中では、小松恭三会長（高14回卒）から関東梅苑会の活動報告、9名で参加した東邦銀行仙台支店長長峯和彦さん（高32回卒）は福島県のうまいもの「さすけねえふくしま!!」とPR、被災した七十七銀行女川支店等の金庫の紙幣乾燥業務の苦労談を落合敏伸会計幹事（高19回卒）、福島県民は逆境に強いから福島島の復興を世界に発信したいと福島民報鈴木正実さん（高28回卒）、松島には震災当日1200、1300名の観光客がいたが、1名も犠牲者を出さなかったと、松島の安全安心をPRする西村晃一松島副町長（高28回卒）と、次々に壇上に上がり、

思い思いの夢と苦労談を披露しました。

合唱部O

Bのリードで、参加者全員で声高らかに校歌を歌い、佐

藤隆副会長の「同窓生がいつでも集える場があったら」と、希望に燃える閉会の辞でお開きとなりました。

私達の同窓会は、百数十年の先輩諸氏の英知・技能・情報等が滔滔無尽に詰まった缶詰であり、自分好みで調味して頂けると思いますが、総会・懇親会がその一助になれば幸甚であります。

どんなに苦しい時でも、どんなに楽しい時でも同窓会の缶詰を開けて頂き、そして「福島高校栄えよく」と口ずさみたいものです。



同窓生の友情に感謝

東日本大震災で 大津波から無謀避難記

3・11大震災の翌日の朝刊を見て、巨大津波の恐ろしさを実感しました。停電でテレビが見られませんでしたから、この恐怖感身心凍りつかせました。

私は、同僚と2人で当日松島のホ

テルのロビーで、同期会開催の打ち合わせをしていたところで地震に遭いました。ホテルの営業マンは、即座に私達に頭を机の下に隠すよう指示しました。それにしても、激しく長い揺れでした。地震の揺れが収まると直ぐに、ホテルではマイクローバスを出し、客を着の身着のままで高台に避難させました。私達も乗るよう

に促されましたが、仙台に帰ることに気が取られ、「大津波が来るから高台に避難するように」という町の広報スピーカーの呼び掛けを気に

しながら、所々で高台に上がり、歩き続けました。商店街はシャッターを下ろし、一人一人いませんでした。瑞蔵寺の正面参道入口まで来た時、同僚が島の間を縫って来る津波を発見。「津波だー」と大声を上げ、観瀾亭の外で、雪の降る中2時間ほど避難してました。この間、津波に流される観光船や自動車などを見、また携帯電話の通じない苛立ちを味わいました。今考えると、なんと無知から来る無謀な行為であったことか。ただただ反省！反省！それにしても、私達が避難中に、北海道の級友から安否を問う携帯が一度繋がりました。言葉では言い表せない安堵感を覚えました。

震災から3日目に電気が点き、電話やパソコンが繋がり、急に安否確認、激励などが殺到しました。私自身、日赤病院等のボランティアに出

ていて、同窓会のことなど全く気付きませんでしたから、「これは失礼」と役員の方々に電話をし、情報収集をしました。その結果、住宅や工場の一部損傷を受けた方々はありましたが、皆元気で応答して頂き、母校や関東梅苑会にその結果を報告しました。しかし、近親者や知人を亡くした方もありました。このような情報は今でも耳に入ってきており、お悔やみやお見舞いを交わすことが絶えません。また、体の変調、心の苦痛を訴える人々とも出会います。

今回の震災は、宮城県や仙台市で予測していた宮城県沖地震をはるかに超える規模でした。しかも、津波は三陸地方では予想されていたが、仙台の沿岸に押し寄せて来るとは、過去に痕跡があったとしても想定されていませんでした。3月19日、仙台空港の滑走路に防風林の松の木や瓦礫が堆積しているのを見た時、言葉が出ませんでした。私の孫達は「飛行機は？」と、ただただ呆然としていました。

今回の大震災で、私は同窓会のメンバーから多くの夢と希望の励ましを頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。福高卒業生という「絆」、「対話の出来る環境」。何にも代えられない貴重な輪であり、財産であることを改めて実感しました。だから歌います。「福島高校栄えよく」と。

みやぎ梅苑会事務局長
羽田登（高9回卒）



福島高等学校長
富田 昭夫

東日本大震災と 原発事故

同窓会員の皆様には、日頃から母校の教育振興と在校生の激励のため、特段のご支援とご協力を賜り誠にありがとうございます。

東日本大震災と原発事故で被災された皆様にお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

昨年3月11日に発生した地震で、校舎は大きな被害を受けました。特に北側の3・4棟（1・2年生の教室、理科の実験室・講義室等）、各棟をつなぐ渡り廊下は大きく破損しました。その影響で、始業式・入学式とも延期せざるを得ず、それぞれ4月18日・19日に行いました。専門家による診断で、3・4棟は使用禁止になりました。3・4棟は、今年9月末までに解体工事を完了。10月から改築工事を開始し、約1年半の工期で、平成26年3月末には新校舎が完成する予定です。県内屈指の進学校にふさわしい学習環境

を備えた校舎を建設したいと考えています。なお、「梅苑会館」はほとんど破損しませんでした。屋外の給水塔、灯油タンクなどが傾き、建物周辺の地面も隆起・陥没し、液状化現象も見られました。今井吉之会長さんのご理解を得て、特別会計を活用させていただき、5月末まで修繕を終えました。

原発事故による放射能への対応では、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校の強みを発揮しました。5月2日、SSH部の生徒や教員らが40台の線量計を使い、敷地内の660地点を計測する「福高グラウンドスキヤン作戦」を実施。敷地内の放射線量の全貌が明らかになりました。特に高かったのは体育館脇の側溝で、最高60μSv/hという値を示しました。5月下旬に業者に委託して土砂等を除去し、高圧洗浄車で洗い流しました。さらに、8月上旬には側溝を2mm程度削り取り、その上をポリマーセメントでコーティングする方法で放射線量を低減させました。グラウンドの表土改善工事は、表土を5cm剥ぎ取って掘削したトレンチ（深さ1.5mの穴）に埋め、その上に掘削土を埋め戻し、さらにグラウンド全体に購入土で覆う方法を行い、8月中旬に完了しました。

現在でも、震災・原発事故の影響で厳しい状況が続いていますが、生徒たちは今、何をすべきかを真剣に考え、明るく前向きに行動してくれています。私は、このような生徒たちを誇りに思います。

福島県は大地震・大津波・原発事故・風評被害・教育格差の「5重苦」に直面しています。福島県を復興・再生させるのは、「次世代リीड」として活躍できる人材を育てる。」ことを教育方針とする福島高校生が担わなければならないと考えます。

私は信じています。福島高校生は、困難に直面すればするほど、それを跳ね返す優れた資質と勇氣、バイタリティーを持ち合わせている生徒たちであることを。

今後ともご支援・ご協力の程よろしく願いますとともに、同窓会の益々の発展をご祈念いたします。

部活動成績

運動部

陸上部

- 県総合体育大会 県大会1位（男子B100m）
- 東北高校新人体育大会 6位（男子100m）

テニス部

- 県総合体育大会 県大会1位（II部ダブルス）

水泳部

- 第59回東北高等学校選手権大会 2位（女子100mバタフライ）
- 第66回国民体育大会水泳競技大会 7位（女子100mバタフライ）

チアリーディング部

- マーチング・パトントワリング発表会大賞、最優秀賞、スピリット賞、上野祭り参加、京都国民文化祭参加

文化部

将棋部

- 第47回全国高等学校将棋選手権大会福島県大会 男子団体戦 優勝
- 第20回全国高等学校将棋新人大会福島県大会 男子個人戦 優勝

囲碁部

- 福島県高校囲碁新人大会 優勝

文芸部

- 第64回県文学賞 青少年奨励賞
- 第9回福島県高等学校文芸コンクール 優秀賞（短歌部門）

合唱部

- 全日本合唱コンクール東北支部大会 銀賞

進学展望

進路希望の動向

平成二四年三月の卒業生は、本校共学化以後、第七期の卒業生となる。

昨年三月一日以降の東日本大震災と原発事故の影響で、比較的被害の少なかった第二棟の教室は確保できたものの、「理科」や「地歴・公民科」などの選択授業は短期間ごとに何度も移動を余儀なくされた。また、一・二年生も四月以降、第二体育館や同窓会館等での二クラス合同（八〇人）の授業を強いられ、八月以降は校舎東側のアスファルトコートに建設された仮設校舎に移動したものの、現在にいたるまで大きな制約の中で学校生活を送っている。

震災と原発事故、それにとまなう放射線被害、さらには国内外の政治・経済・社会情勢も目まぐるしく変化し続け、「福島」と本校を取り巻く環境も大きく動いた一年だったが、本校生の学習に対する真摯な取り組みと進路希望の実現に向けての継続的な努力は例年以上に熱を

帯びていた。

共学化以降、本校生徒の学習成績は年度による変動はやや見受けられるものの確実に向上してきており、その成果を進学実績に着実に結びつけてきている。「国公立大学志向」「理高文低（大学や学部の人気）」という全国的な流れは本校生においても顕著で、医学部及び医科大学、さらに薬学部や保健学科を中心に理科系の大学・学部を志望する生徒が男女を問わず増えてきている。ここ数年全国的に志願者が減少していた歯学部も回復傾向にあり、教育学部も含めて将来の職業選択に直結するような資格取得を前提とする実学志向は一層強まっており、今後しばらくはこの傾向が続くものとみられる。一方で、法学部や経済学部を中心に文化系の学部を志望する生徒は全国的に減少してきており、この傾向はここ数年本校生においても現れてきている。

入試出願状況（現役の延べ数）

項	大学名	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年
国公立大	北海道大	32	9	11	13
	岩手大	8	5	8	7
	東北大	69	87	72	111
	山形大	15	20	18	20
	福島大	66	61	85	56
	茨城大	10	9	5	7
	筑波大	15	31	16	26
	宇都宮大	2	6	7	12
	埼玉大	24	26	26	16
	千葉大	34	31	24	33
	東京大	5	12	7	14
	東京外語大	6	9	6	6
	東京工業大	6	11	3	0
	一橋大	2	8	1	2
	横浜国立大	13	22	16	4
	新潟大	28	21	24	24
	京都大	3	5	2	1
	その他	63	60	45	59
私立大	県立医科大	66	42	61	43
	県立会津大	1	0	1	2
	高崎経済大	2	2	7	1
	その他	36	32	27	9
	東北学院大	20	4	12	9
	青山学院大	34	44	35	35
	慶応義塾大	22	28	24	22
	上智大	7	6	5	3
	中央大	61	52	57	89
	東京理科大	31	32	40	23
	日本大	20	14	17	13
	法政大	48	42	40	52
	明治大	118	90	77	76
	立教大	37	55	29	38
	早稲田大	79	77	67	118
	その他	282	213	211	253
国立大学合計		401	433	376	393
公立大学合計		105	76	96	78
私立大学合計		759	657	614	745
総計		1,265	1,166	1,086	1,216

大学合格者数（過年度卒を含む）

項			平成 23年	平成 22年	平成 21年	平成 20年
合格者数	国公立大	北海道大	4	3	6	3
		岩手大	0	3	1	2
		東北大	41	33	47	34
		山形大	11	10	6	5
		福島大	33	35	21	18
		茨城大	1	2	3	5
		筑波大	10	7	12	10
		宇都宮大	3	4	7	4
		埼玉大	11	11	6	4
		千葉大	13	5	10	10
		東京大	6	4	4	4
		東京外語大	1	0	3	3
		東京工業大	6	3	0	0
		一橋大	2	2	0	1
		横浜国立大	7	4	0	7
		新潟大	8	10	8	11
		京都大	5	1	2	2
		その他	16	9	19	28
		県立医科大	15	16	17	18
		高崎経済大	0	2	0	1
		その他	9	12	6	15
	小計	24	194	178	185	
	私立大	慶応大	13	10	6	10
		早稲田大	44	41	36	34
		中央大	34	33	39	38
		明治大	44	37	31	35
		法政大	19	28	26	28
		立教大	22	10	21	21
		日本大	13	13	10	14
		東北学院大	7	10	6	3
		同志社大	6	2	0	4
		その他	134	214	214	224
	小計	336	398	389	411	
就職	準大学	2	3	1	0	
	短大	3	5	2	3	
	各種学校	1	3	0	3	
	合計	6	603	567	660	

寄贈図書紹介（平成23年1月～12月）

寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者（敬称略）
23.2.09	プロフェッショナルの条件	ドラッカー	ドラッカー学会
23.2.09	もし野球部の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ドラッカー学会
23.2.09	湯浅謙二の世界	河野保雄	福島県
23.2.09	美のおもちゃ箱	百点美術館	福島県
23.2.09	季刊 東北学 第26号	東北文化研究センター	福島社会科
23.2.09	まんだら Vol. 46（東北文化友の会会報）	東北文化友の会	福島社会科
23.2.18	知らないと恥をかく世界の大问题	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	わかりやすく（伝える）技術（わかりやすさ）の勉強法	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	武器なき「環境」戦争	池上彰、手嶋龍一	中央大学学校賞
23.2.18	見通す力	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	facebook フェイスブック	ベン・メズリック	中央大学学校賞
23.2.18	おしえて！ニュースの疑問点	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	「見えざる手」が経済を動かす	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	日銀を知れば経済がわかる	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	コミュニティを問いなおす	広井良典	中央大学学校賞
23.2.18	「世界征服」は可能か？	岡田斗司夫	中央大学学校賞
23.2.18	「害くのが苦手」をききわめる	遠辺哲司	中央大学学校賞
23.2.18	日本がもし100人の村だったら	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	ものの考え方	串田孫一	中央大学学校賞
23.2.18	生きることの意味	田中美知太郎	中央大学学校賞
23.2.18	地球最後の日のための種子	スーザン・ドヴォーキン	中央大学学校賞
23.2.18	やりたい仕事がある！	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	池上彰の「世界がわかる！」	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	池上彰のメディア、リテラシー入門	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	憲法はむずかしくない	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	大衝突	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	記者になリたかった	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	政権交代と日本の未来	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	新型インフルエンザの基礎知識	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	14才からのお金の話	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	経済のことよくわからないまま社会人になってしまった人へ	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	政治のことよくわからないまま社会人になってしまった人へ	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	ハーバードの人生を変える授業	タル・ベン・シャハー	中央大学学校賞
23.2.18	デフレの正体	篠谷浩介	中央大学学校賞
23.2.18	ニュースの読み方使い方	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	貧困の克服	アマルティア・セン	中央大学学校賞
23.2.18	そうだったのか！中国	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	世界を救う7人の日本人	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	今日の総理	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	世界のしくみがよくわかる！	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	ニュースを読む技術	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	14歳からの世界金融危機	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	高校生からわかるイスラム世界	池上彰	中央大学学校賞

寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者（敬称略）
23.2.18	高校生からわかる「資本論」	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	これからの「正義」の話をしよう	マイケル・サンデル	中央大学学校賞
23.2.18	池上彰の大衝突	池上彰	中央大学学校賞
23.2.18	世界史の構造	柄谷行人	中央大学学校賞
23.8.10	心理学ワールド	日本心理学会	日本心理学会
23.8.10	遅刻坂にも春が来る	阿部勉久	著者
23.8.10	「古文」で身につく、ほんものの日本語	鳥光宏	著者
23.8.10	絶対に知っておくべき日本と日本人の10大問題	星 浩	星 浩（高校26回卒）
23.8.10	性と死への問い	正村俊之	東北大学
23.8.10	季刊 東北学 27号	東北文化研究センター	福島社会科
23.8.10	まんだら Vol. 47（東北文化友の会会報）	東北文化友の会	福島社会科
23.9.15	果てなき荒野を越えて	高橋佳子	中井二三子
23.9.15	カシオン幕末を走る	高杜一栄	著者
23.9.15	学校図書館と知の地域づくり	片山善博	岩瀬書店
23.9.15	恋愛を考える	慶応義塾大学文学部	慶応義塾大学
23.9.15	福島県高等学校野球連盟史 II	福島県高等学校野球連盟	福島県高等学校野球連盟
23.9.15	新・燃ゆるとき	高杉良	著者
23.9.15	3手話ハンドブック2	浦野真彦	福島将棋部
23.9.15	5手話ハンドブック	浦野真彦	福島将棋部
23.9.15	5級からの詰将棋 81	佐藤康光	福島将棋部
23.9.15	詰めと必至ハンドブック	内藤國雄	福島将棋部
23.9.15	のびのびしむじみ5手話	内藤國雄	福島将棋部
23.9.15	読むだけで強くなる終盤のコツ130	青野照市	福島将棋部
23.9.15	初級者 将棋上達の方程式 寄せの公式	真田圭一	福島将棋部
23.9.15	初級者 将棋上達の方程式 囲いの公式	屋敷伸之	福島将棋部
23.9.15	初級者 将棋上達の方程式 手筋の公式	北島忠雄	福島将棋部
23.9.15	超初心者 将棋上達の方程式	日本将棋連盟	福島将棋部
23.10.11	気持ちのキセキ	せきあやこ	フリップ・モリヤカッ
23.10.11	放射能汚染ほんとうの影響を考える	浦島充佳	著者
23.10.11	クリムゾンズ 1	菅野典孝（高校55回卒）	浅野喜尚・旧職員
23.10.11	午後2時46分すべてが変わった	quakebook.org	
23.10.11	ミシシッピーのお袋	磯部慧	グッドフェローズ
23.10.11	パレスチナ「戦傷外科」の日々	指山浩志	著者
23.10.11	3. 11世界中が祈りはじめた日	prayforjapan.jp	講談社
23.11.21	こころの幻灯機	アポロガス	藤木雄司・アポロガス社長
23.11.21	環境管理の成立	菅家正端	菅家正端（高校15回卒）
23.11.21	企業政策論の展開	菅家正端	菅家正端（高校15回卒）
23.11.21	企業管理論の構造	菅家正端	菅家正端（高校15回卒）
23.11.21	長崎から21世紀への提言	菅家正端・監修	菅家正端（高校15回卒）
23.11.21	法と企業形成	志津田氏治・編	菅家正端（高校15回卒）
23.11.21	企業メセナの理論と実践	菅家正端・編	菅家正端（高校15回卒）
23.11.21	現代企業の経営学	佐々木弘・編	菅家正端（高校15回卒）
23.12.20	生きるってすばらしい	たなかまきこ	著者
23.12.20	君たちに捧げる	中村殿	著者
23.12.20	福島の学徒動労動員の全て	福島の学徒動労動員を記録する会	福島の学徒動労動員を記録する会
23.12.20	古代信夫国造伝承による郷土造りの探索	三島義教	三島義教（高校4回卒）

福島県立福島高等学校同窓会 役員および事務局員

平成23年度 同窓会役員

会長	川崎 眞二	高11回
副会長	内池 浩	高14回
副会長	小松 恭三	高14回
副会長	久米 允彦	高16回
副会長	渡邊 健寿	高17回
副会長	歌川 和夫	高17回
副会長	片平 憲市	高19回
常任理事	佐藤 紀男	高11回
常任理事	齋藤 登	高12回
常任理事	磯貝 健郎	高13回
常任理事	林 恭良	高14回
常任理事	永倉 禮司	高15回
常任理事	二階堂 晋一	高16回
常任理事	富田 建一郎	高16回
常任理事	長谷川 好美	高17回
常任理事	山岸 清	高18回
常任理事	佐久間 政文	高19回
常任理事	本多 修二	高20回
監事	鈴木 芳喜	高19回
監事	松野 孝司	高20回
理事	角田 征雄	高12回
理事	三瓶 昌久	高13回
理事	久家 孝夫	高13回
理事	岡崎 勇三郎	高15回

理事	今野 金額	高15回
理事	池田 正昭	高17回
理事	勢島 昇	高18回
理事	本多 純一郎	高19回
理事	花井 宣明	高20回
理事	網代 智盟	高21回
理事	佐藤 信雄	高21回
理事	尾形 克彦	高22回
理事	芳賀 裕	高22回
理事	黒澤 信雄	高22回
理事	大野 順道	高22回
理事	菅野 日出喜	高23回
理事	加藤 典義	高23回
理事	村上 正文	高23回
理事	江口 淳	高23回
理事	渡辺 久	高25回
理事	後藤 忠久	高26回
理事	土屋 牧雄	高26回
理事	阿部 芳和	高27回
理事	片平 淳	高28回
理事	八子 直樹	高31回
理事	篠木 雄司	高33回
理事	吉成 健二	高33回

平成23年度 同窓会事務局員

松浦健二	高18回
須藤 鑑	高26回
朽木 隆	高27回
今関達也	高28回
石田正彦	高30回
神田亮一	高32回
目々澤光一	高36回
佐藤富浩	高36回
丹治 崇	高36回

渡邊兼綱	高36回
斎藤 実	高37回
大河内孝志	高38回
本多信弥	高40回
緑川信史	高40回
渡辺洋生	高43回
菅野祐智	高44回
松井暢彦	高53回

平成23年度 同窓会幹事

吉田文香	1組
斉藤知暉	2組
金成舞子	3組
鹿股 慎	4組

熊澤彬人	5組
上石涼也	6組
清野隼士	7組
鈴木琢真	8組

事務局からのお知らせ

- 事務局では今後「梅苑会報」の内容を充実させたいと考えております。同窓会に関係するニュースや情報などがございましたら、下記の事務局まで**FAX**か**郵送**でお知らせ下さい。

- お知り合いの方で「梅苑会報」が届いていない場合は、新しい住所を同封の**同窓会員異動通知票**に**直接書き込んで郵送**していただくか、または**FAX**にて事務局までご連絡下さい。

〒960-8002 福島県福島市森合町5-72
福島県立福島高等学校同窓会事務局 FAX024-535-2392

発行所：福島県立福島高等学校同窓会
960-8002 福島県福島市森合町5-72
福島高校：024-535-2391
梅苑会館：024-536-9511
振替口座：仙台 23948

発行人：川崎眞二

発行日：平成24年3月1日

印刷：(株)日進堂印刷所

[題字は故若林名誉会長]